

平成30年度 学力向上プラン

1 昨年度の学力向上に向けた取組の成果と課題

【成果】

- 「研究内容を踏まえた授業づくり」「算数における少人数指導の工夫・継続」「校内共通事項の徹底」に関する取組の効果が児童の学力状況へ反映された。
- 平成28・29年度全国学力・学習状況調査下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合を比較すると、国語AB及び算数Aにおいて割合が減少した。
- 平成28・29年度釧路市標準学力検査の評定1の児童の割合を同一集団で経年比較すると、国語では4・6年生、算数では4・5・6年生の割合が減少した。

【課題】

- 諸検査による学力状況は改善傾向にあるが、児童が主体的に学習に取り組む姿勢が育っていない学級が複数ある。
- 平成29年度釧路市標準学力検査の算数において、5年生は評定1の児童の割合が47.2%と約半数を占めていた。

2 今年度の学力向上に向けた取組計画

(1) 学力向上推進の重点

児童の自主的、自発的な学習が促されるような授業づくり

(2) 学力調査における下位層の力を伸ばすための学校全体での具体的な取組

- * **ステップアップ教室** (期間：通年～週1回)
指導員を配置し、主として算数の基礎的・基本的な内容の補充学習を行う。(放課後)
- * **夏の補充学習** (期間：7月～3日間)
夏休み中に国語・算数の基礎的・基本的な内容の補充学習を行う。
- * **放課後学習** (期間：通年)
算数科の知識及び技能の定着状況を見ながら、支援が必要な児童に対して宿題のサポートを行う。

(3) 学力調査における中位・上位層の力を伸ばすための学校全体での具体的な取組

- * **朝学習** (期間：通年)
始業前の10分間、国語・算数の知識・技能の定着を目的とした学習を行う。(週2日)
- * **少人数指導** (期間：通年)
少人数指導の教諭を配置し、算数科において習熟度別指導を行う。
- * **授業改善推進チームの活用** (期間：通年)
国語科及び算数科において、推進教員とともにティームティーチングの授業を行う。

(4) 取組計画 * 「釧路市学校改善プラン」における具体的な3つの視点に基づく年間計画

	取組内容
〈視点1〉 授業づくり	<p>◇校内研修とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科道徳で行う「自分の考えの記述」「本時の学習の振り返り」を教育活動全体を通して行っていく。 <p>◇推進教員と協働した授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「通常の学習活動の質を向上」する視点を推進教員と共有し、協議の内容を授業に反映させる。
〈視点2〉 環境づくり	<p>◇放課後学習や補充的な学習サポートの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な内容の定着が不十分な児童に対して、放課後や長期休業中に補充学習を実施する。 <p>◇校内共通事項の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律、ノート指導、学習過程（算数）について全職員と共通理解を図り、徹底に努める。 <p>◇補充的な問題の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジテストや釧路市標準学力調査の結果をもとに、補充的な問題を作成し、朝学習・授業・宿題等で活用する。
〈視点3〉 習慣づくり	<p>◇家庭学習の定着に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」を家庭へ配布し、家庭の理解を得ながら、宿題・自主学習の質的向上を図る。 <p>◇家庭学習の方法がわからない児童への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が取り組んだ自主学習をプリントとして家庭へ配布し、取組を価値付ける。

(5) 昨年度の成果と課題、今年度の学力向上推進の重点を踏まえた各学年の具体的な取組

	【国 語】	【算 数 ・ 数 学】
1 学年	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字を正しい筆順で書いたり読んだりできるようにする。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> I C Tや教材を活用した学習を行う。 朝学習や家庭学習において反復学習を行う。 	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数の概念を理解し、正しく計算できるようにする。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> I C Tや教材を活用した学習を行う。 T Tや少人数等の体制を有効活用する。
2 学年	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着及び児童が意欲を持って取り組める授業を行う。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が自ら取り組みたいと思うような単元を貫く言語事項の設定 毎週末の日記や漢字学習等の宿題の充実 	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着を図る。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎時間の課題の設定及び振り返りの実施 習熟度別少人数指導の有効活用
3 学年	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の目標を児童が理解し、見通しを持って学習を行えるようにする。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元名について考える時間を設ける。 毎時間、学習課題を提示し、学習の目的を意識させる。 	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の課題を児童が理解し、見通しを持って学習を行えるようにする。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎時間、学習課題を提示し、学習の目的を意識させる。 見通しを持たせ、自分の考えが持てるようにする。
4 学年	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を正しく読み取る力を養う。 自分の思いを積極的に書こうとする意欲を高める。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が意欲的に取り組めるよう、単元を通した課題を明確にする。 振り返り等、感じたことを書く時間を意図的に設定する。 	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを説明したり、友達と交流しながら課題を解決する力を養う。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時との違いをはっきりさせ、児童が課題を設定できるような導入を工夫する。 自信を持って考えを交流できるよう、見通しを持たせてから個人思考に移る。
5 学年	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が自発的に取り組み、対話しながら考えを深めていける授業を行う。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元を貫く課題を設定する。 自分の意見を持つ場面と、対話しながら課題解決する場面を設定する。 	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が自発的に取り組み、何を学んだのかが明確になる授業を行う。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 単位時間のねらいを明確にする。 児童が考えたいと思える課題を設定する。
6 学年	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 趣旨をつかみ、根拠に基づいた発言ができるようにする。 自分の考えを持つ習慣を付けさせる。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝記や歴史等に係わる図書を推薦する。 年間を通じて、随筆風の文を書く機会を設ける。 聴き方及び話し方を整えていく。 国語辞典を効果的に使用させる。 	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6 年間の総復習として、既習の知識・技能を活用した、主体的な学びができるようにする。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数用語を身近なものとし、考える時や説明する時に使うよう働きかける。 考えるー交流するー深めるといった一連の流れを理解し、反応できるよう指導していく。 まとめー振り返りを意識させ、次の学習に繋げていく。

4 **チャレンジテスト1学期末問題**の活用による指導の改善・充実のための取組

【「ほっかいどうチャレンジテスト1学期末問題」や「学期末テスト」などから見られる成果と課題】

【学校全体としての取組】	
【成果】 ○単元別問題を配布して取り組むとともに、結果を集計して全職員で共有した。	【課題】 ●単元別問題の活用が不十分な学年も見られた。
【今後の取組】 ・チャレンジテスト活用を周知徹底するとともに、引き続き取組を継続していく。	

5 **全国学力・学習状況調査**の活用による指導の改善・充実のための取組

【全国学力・学習状況調査結果から明らかになった自校の成果と課題】

<p>●教科に関する調査の結果</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語B及び算数Bの下位層の割合が全国値よりも少なかった。 ○算数Bの平均正答率が全国平均をこえた。 <p>⇒国語科においても算数においても活用する力が身に付いていると言える。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語（A・Bともに）の平均正答率が全国平均より低かった。 ●国語の「主語と述語の関係などに注意して書く」「内容の中心を明確にして、詳しく書く」問題の正答率が低かった。 ●算数の「小数の除法の意味について理解する」「棒グラフと帯グラフをもとに適切に判断する」問題の正答率が低かった。 <p>⇒要旨や意味を理解したり、表現したりする力が身に付いていない。</p> <p>●質問紙に関する調査の結果から見られた自校の特徴</p> <p>【学習習慣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「家で学校の授業の予習・復習をしていますか」「家で予習・復習やテスト勉強などの自主学習において、教科書を使いながら学習していますか」の質問において「当てはまる・どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童の割合が85～90%となっており、全国値を大きく上回った。 <p>⇒自主学習の取組が児童に定着している。</p> <p>【生活習慣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」の質問において「参加したことがある」と回答した児童の割合が23%に留まり、全国値を大きく下回った。 <p>⇒ボランティア活動に対する取組が校内でもあまり行われておらず、児童の取り組む意識も低い。</p>
--

6 チャレンジテストや全国学力・学習状況調査等の結果から見られる各学年の成果と課題

	【国 語】	【算 数 ・ 数 学】
1 学年	<p>【成果・課題】</p> <p>○平仮名を書く力が身に付いていた。</p> <p>●文を書くことについて課題が見られた。</p> <p>【今後の改善点】</p> <p>・朝学習や家庭学習において反復学習を行い、文を書く力を養う。</p>	<p>【成果・課題】</p> <p>○数唱及び10の分解が身に付いていた。</p> <p>●たし算の計算技能に課題が見られた。</p> <p>【今後の改善点】</p> <p>・TTや少人数指導の体制を有効活用し、計算技能の定着を図る。</p>
2 学年	<p>【成果・課題】</p> <p>○漢字の読みが身に付いていた。</p> <p>●文章を読んで考えることに課題が見られた。</p> <p>【今後の改善点】</p> <p>・指導事項を押さえた言語活動を通して、読む力が身に付くようにする。</p>	<p>【成果・課題】</p> <p>○表やグラフに表す力が身に付いていた。</p> <p>●長さを読み取ることに課題が見られた。</p> <p>【今後の改善点】</p> <p>・習熟度別指導により技能の定着を図る。</p>
3 学年	<p>【成果・課題】</p> <p>○漢字の読み書きが身に付いていた。</p> <p>●文章読解に課題が見られた。</p> <p>【今後の改善点】</p> <p>・指導事項を押さえた言語活動を行うとともに、学習の目的を意識できるよう課題提示をし、読む力が身に付くようにする。</p>	<p>【成果・課題】</p> <p>○かけ算・わり算の計算技能が身に付いていた。</p> <p>●式から問題を選ぶことに課題が見られた。</p> <p>【今後の改善点】</p> <p>・見通しの提示により個人思考の充実を図り、学習内容の意味理解が促されるようにする。</p>
4 学年	<p>【成果・課題】</p> <p>○漢字の読みが身に付いていた。</p> <p>●話すこと・聞くことに課題が見られた。</p> <p>【今後の改善点】</p> <p>・指導事項を押さえた言語活動を通して、話す・聞く力が身に付くようにする。</p>	<p>【成果・課題】</p> <p>○わり算の計算技能が身に付いていた。</p> <p>●折れ線グラフの読み取りに課題が見られた。</p> <p>【今後の改善点】</p> <p>・学習内容の定着を図ることで個人思考を充実させ、集団解決を行うようにする。</p>
5 学年	<p>【成果・課題】</p> <p>○漢字の読みが身に付いていた。</p> <p>●説明文の読解に課題が見られた。</p> <p>【今後の改善点】</p> <p>・指導事項を押さえた言語活動を通して、必要な力が身に付くようにする。(意見を持つこと及び対話をすることの重視)</p>	<p>【成果・課題】</p> <p>○小数のかけ算の計算技能が身に付いていた。</p> <p>●体積の計算技能に課題が見られた。</p> <p>【今後の改善点】</p> <p>・1単位時間のねらいを明確にした学習を行うとともに、単元に応じて知識・技能の定着を図る。</p>
6 学年	<p>【成果・課題】</p> <p>○漢字の読みが身に付いていた。</p> <p>●説明文の読解に課題が見られた。</p> <p>【今後の改善点】</p> <p>・指導事項を押さえた言語活動を通して、必要な力が身に付くようにする。(書く活動も重視していく。)</p>	<p>【成果・課題】</p> <p>○分数のかけ算の技能が身に付いていた。</p> <p>●計算の仕方の説明に課題が見られた。</p> <p>【今後の改善点】</p> <p>・算数用語を身近なものとして捉え、個人思考や集団解決の際に活用できるようにする。</p>

7 学力向上プランの中間評価及び今後の取組

	取 組 内 容
〈視点1〉 授業づくり	<p>【成果と課題】</p> <p>◇校内研修とのつながり ・「自分の考えの記述」「本時の学習の振り返り」が児童に定着してきた。</p> <p>◇推進教員と協働した授業づくり ・推進教員と協働した授業づくりを行う学級が増えてきた。授業づくりが一部の学級に限られていることが課題である。</p>
	<p>【今後の取組】</p> <p>◇推進教員と協働した授業づくり ・より多くの職員に推進教員を有効に活用してもらえよう、通信等を使って情報提供を行っていく。</p>
〈視点2〉 環境づくり	<p>【成果と課題】</p> <p>◇放課後学習や補足的な学習サポートの取組 ・放課後学習や補足的な学習サポートが計画通り進められている。</p> <p>◇補足的な問題の活用 ・チャレンジテストの単元別問題やフォローアップ問題を有効活用することができた。</p> <p>◇校内共通事項の徹底 ・学習規律、ノート指導、学習過程（算数）の徹底を図ることができた。</p>
	<p>【今後の取組】</p> <p>◇補足的な問題の活用 ・釧路市標準学力検査後にフォローアップ問題等を活用し、定着が不十分だった内容についての知識や技能の定着を図る。（チャレンジテストの活用については前期と同様）</p>
〈視点3〉 習慣づくり	<p>【成果と課題】</p> <p>◇家庭学習の定着に向けた取組 ・本校全体の取組として定着している。</p> <p>◇家庭学習の方法がわからない児童への手立て ・「家庭学習の手引き」は年度初めに配布し、家庭学習の通信は4回配布できた。</p>
	<p>【今後の取組】</p> <p>◇家庭学習の方法がわからない児童への手立て ・今後も家庭学習に関する通信を発行し、全家庭へ配布していく。</p>